

社会科学習指導案

日時 平成28年5月18日(水) 3校時

児童 3年生

授業者

場所

1 小単元名 「わたしたちのまちはどんなまち」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領社会編の第3学年及び第4学年の内容(1)を扱った単元であり、ねらいは、地域の様子は場所によって違うことを考えることである。身近な地域や住んでいる市の様子について、地形や土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物を手掛かりとして調べ、白地図にまとめることで、地形や土地利用の様子、主な公共施設などの働き、交通の様子、古くから残る建造物という視点を合わせて地域の様子を多面的にとらえ、地域の様子は場所によって違いがあることを具体的に考えられるようにすることが大切である。

(2) 児童観

省略

3 単元目標

自分たちの学校のある身近な地域の様子を観察、調査したり、白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えることができるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解	道徳的学び
ア 自分たちの学校のある身近な地域の様子に関心を持っている。 イ 自分たちの学校のある身近な地域の様子を視点を持ちながら、意欲的に調べている。 ウ 自分たちの学校のある地域の特色をまとめて、自分なりの言葉で表現しようとしている。	ア 自分たちの学校のある身近な地域の様子から学習問題を見いだして追究している。 イ 身近な地域の様子は場所によって違いがあることについて思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	ア 自分たちの学校のある身近な地域の様子を的確に観察したり、調査したり、必要な情報を集めている。 イ 調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて絵地図や白地図にまとめている。	ア 学校の周りの地域や市の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの様子と働き、交通の様子、古くから残る建造物の場所と様子などを理解している。 イ 地域の様子は場所によって違いがあることを理解している。	2-(3)信頼友情 町探検やその結果の交流において、友達の考えを理解し、足りない所は、補い合おうとしている。

5 第一小単元の指導計画(全 17 時間)

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> 電波塔の写真を見て、既知の情報を交流する。 屋上から学校のまわりの地域の様子を観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電波塔について、あいまいな点を捉えさせる。 一つの方角(北)だけではなく、他の方角(西・南、東)にも視野を広げられるようにする。 	関ア
学習問題①わたしたちの学校のまわりはどのような様子だろう。			
3 ～ 14	<p>問いに対する問題解決を3回繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真、屋上から見てわかる情報を基に問いを立てる。 問いに合わせた探検の計画を立てる。 観察の視点を確認する。 学校のまわりの地域を探検する。 探検の際に見つけたものは、白地図にメモして、全体で交流する。 交流から得られた特色を白地図へ書き込む。 特色を関連させ事実認識を深める。 交流を通して、事実と事実を関連付け、深まった事実認識を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> その方角の特色に着目できる写真を提示する。 観察の視点を確認する際に前回の探検で得られた視点を含むことができるよう働きかける。 学校を中心とした白地図にはあらかじめ歩く経路を明記しておく。 交流の際に提示できるよう、場所の確認ができる写真及び、新たな視点を視覚化する写真を撮影しておく。 拡大白地図に全体で交流したことを記録する。 白地図の情報を整理するために、色分けやシールによる情報の抽象化を促す。 	思ア 関イ 技ア 知ア
電波を届けるために地形を利用したり、人がたくさん住むところに公園があったり、大きな道路の近くにお店があったりした。(学習問題①の解決)			
学習問題②それぞれの特色に合う工夫は他にどんなものがあるのだろう？			
15	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに、特色に合う工夫を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地形の利用の工夫」「住みやすさのための工夫」「買い物しやすさのための工夫」という観点を基に、探検で見つけた1つ1つの事実を再認識できるようにする。 	関ウ
16	<ul style="list-style-type: none"> 絵地図だと細かすぎることに着目し、調べてきたことを平面地図に置き換える。 	<ul style="list-style-type: none"> 平面地図で表すよさを捉えられるよう、促す。 合わせて、地図記号の指導を行う。 	技イ
17	<ul style="list-style-type: none"> 「思考ツール」を使用し、事実認識を関連させて捉え、価値認識を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「思考ツール」を提示し、事実認識を関連付けて捉えられるよう促す。 	思イ 知イ
地形を利用する工夫、住みやすい工夫、買い物をするお客さんが便利な工夫があった。(学習問題②の解決)			

6 小中連携の視点

	小学校3学年	中学校2学年
目指す 子供の姿	<ul style="list-style-type: none"> 事実を関連付けることで学校のある地域の特色について事実認識を深め、深めた事実認識をもとに事実を整理し関連付けることで地域の様子について意味付けし価値認識を獲得する。得られた価値認識を釧路市に範囲を広げ確かめることで公正な価値判断をする姿。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の調査を通して、生活している地域に対する理解と関心が高まり、地理的な見方・考え方をもとに、その(背景・課題を含む)特色を追究することができる生徒
手立ての 視点	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程の選択の中で問いを連続させる単元構成の工夫。 価値認識を得るための「思考ツール」を用いた交流の場の設定。 社会事象を「総合」するための別の事象と出合う場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の特色を追究できる単元を貫く課題を設定し、批判的思考の観点から課題追究させ、社会認識を深めさせる。

第一小単元の序盤

I 状況的興味の喚起・維持を促すために

学習問題へと繋がる資料提示の工夫

導入時、学校から北の方角にある電波塔の写真を提示する。見たことはある児童が多くいるであろう身近なものの写真を提示することで、児童が予想したり興味を持ったりしやすいと考える。児童の「確かめたい！」という問題意識の高まりをねらっていく。

I - (1) 内的活動の高まりを促すための工夫

資料に対する既知、経験を踏まえた交流の場の設定

問題意識を高めた後に、どのような場所に立っているのか交流することで(屋上からは、建物や地形の死角により見えない)電波塔の周りの地域の様子について調べるといった問いへとつなげていく。またその際、他の方角の様子についても交流し、北以外の方角にも探検に行く必要があるという意識を共有するようにすることで学習問題①を設定する。

① 社会事象と出会い、自分とのかかわりを意識する子供

第一小単元の中盤

II 個人的興味の出現を促すために

学習問題の解決に向けた学習過程の選択と事実認識を促す場の設定

学校の北側、西・南側、東側の順に探検を行う。3回の探検ごとに、

- (1) 児童の疑問をまとめた問いを立てる。
- (2) その問いの解決のために探検で事実の収集を行う。
- (3) 探検後に、事実がまとめられた白地図をもとにした交流を行う。

という学習過程を繰り返す。その学習過程のなかで地域ごとに気付かせたい事実認識を整理し、町探検の範囲として、その事実認識へとつながる事実が特色的にみられる地域を選定する。

(3)で、児童が探検の中で、個別に捉えていた事実と事実の関連や、事実の意味に気付かせるように、働きかけていくことで、

電波を届けるために、地形を利用しているんだ(地形)
人がたくさん住んでいる近くに公園があるんだ。(公共施設)
お店は道路のそばにあるんだ。(交通)

というそれぞれの地域に見られる特色的な事実から深まった事実認識を獲得できるようにしたい。

第一小単元の終盤

II-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫

価値認識へと高めるための「思考ツール」を活用した交流の場の設定

3回の探検が終了し、それぞれの地域について特色が捉えられたことを出発点として、「それぞれの特色に合う工夫は他にどんなものがあるのだろうか？」という学習問題②へつなげていく。

深まった事実認識をもとに整理することで、それまで意識されていなかった事実認識に対する意識化を促し、深まった事実認識を増やしていく。

深まった事実認識とそれをもとに整理され意識化された新たな事実認識とを統合することで、町の様子について意味づけし、価値認識へと思考を高めていく児童の姿を目指していく。その際に、「思考ツール」を活用し、児童が点として捉えられている事実を他の点と関連させて捉えられるようにしていく。

② 予想や学習問題に基づいて問題解決を繰り返す子供

第二小単元

III 発達した個人的興味の出現を促すために

社会的事象を総合・再構成するための別の事象と出合う場の設定

本単元でいう新たな社会事象とは、学校の周りに対する釧路市全域の様子である。範囲が釧路市に広がることにより、「釧路市も、自分達が調べてきた地域と同様の工夫がされているのだろうか。」という新たな学習問題が生み出されると考える。

学校の周りの地域への価値認識と釧路市内の各地域から得られた事実認識との比較・関連付けを行うことで、学校の周りの地域への価値認識を強化したり、広げたりしていき価値判断の土台としていくことをねらいたい。

大単元としてのまとめ

III-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫

価値判断を促す交流の場の設定

「市では、どのような工夫がされていたか。」という視点で交流することによって、学校の周りの地域や釧路市について生み出された価値認識を総合し、「町は住んでいる人達のために様々な工夫が行われている。」という価値判断を促していく。

③ 社会的な見方や考え方を成長させる子供

8 本時について (10/17 時間目)

(1) 研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点Ⅱの手立てを講じていく。

児童は前時までに、探検した西・南方面の様子について、白地図に絵や言葉で記入している。本時では、そこに表された事実の数に着目させ、家と公園に焦点を当てて考えることができるようにしていく。

数に着目し、家の多さと公園の数、場所とを関連付けて考えるようにするために、家が建っているところに色を塗ったり、公園の場所にシールを貼ったりする活動を行っていく。

そうすることにより、調べたことをもとに考えを整理し、全ての方角の探検後の交流の土台となるようにしていきたい。

(2) 本時の目標

西・南方面の特色を白地図にまとめることを通して、家の多いところに公園がたくさん作られていることを理解することができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 ■自己肯定感	【評価】 個に応じた指導 (△発展的▲補足的)
○前時の学習内容を想起する。 ○家ばかりあるのか調べたよ。	□今回の探検の問いを確認する。	
<p>西・南方面は家ばかりだったんだろうか。わかったことを交流しよう。</p>		
<p>○西・南方面についてわかったことを全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜ヶ岡中学校があったよ。 ・お米屋さんがあったよ。 ・公園もいくつもあったよ。 ・家が多かったよ。 ・家が一番多くて、次に公園が多かった。 <p>○グループで西・南方面の家が建っていたところに色を塗り、公園の場所にはシールを貼り付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここに公園があったよ。 ・こっち側にも公園があったよ。 ・ほとんど家が建っている場所だな。 ・公園がこの地域だけでいくつもあるな。 <p>○全体で家や公園の場所を確認し、その多さから考えられることを交流していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家が多いってということは、住んでいる人も多いということだと思う。 ・家が多いってことはここに住みたい人がたくさんいるんだと思う。 ・家が多いってことは、子供も多いんじゃないかな。 ・お年寄りも多いんじゃないかな。 ・公園が多いってことは、子供が遊ぶ場所がたくさんあるってことだよ。 ・お年寄りも使えるよ。 ・子供が多いから、公園がたくさんあるんじゃないかな。 ・もしも、公園が少なかったら、遊びたくても遊びにくくなっちゃうかもしれないから、たくさんあるんじゃないかな。 	<p>□事実(そこになにがあった)から数への着目を促す。Ⅱ</p> <p>□グループごとに作業する白地図を別に用意しておく。Ⅱ</p> <p>□場所を確かめられるよう資料を用意しておく。</p> <p>□拡大した白地図を基に家が多いことから考えられること、公園が多いことから考えられることを板書していき、その関連が視覚的にも捉えられるようにする。Ⅱ</p> <p>□数からへの着目を促す。Ⅱ</p>	<p>△位置関係や数を正確に捉えられている児童は、そのよさを称賛するとともに、交流の際の広がりにつながるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">【知ア～ 観察・発言・記述】</p> <p>▲西・南方面の様子を捉えられない児童には、資料を提示し、位置や数を捉えられるように働きかける。</p>
<p>人がたくさん住んでいる近くに、公園があるんだね。</p>		
○ノートにわかったことをまとめる。	■西・南方面の地域の特色がわかったことを価値付けし、東方面の探検への意欲が高まるようにする。	